

第6回 府中市男女共同参画推進協議会 議事録

- 日 時 平成30年11月28日（水）午前10時から11時45分まで
- 会 場 府中市役所北庁舎3階会議室
- 出席者 （委員）
諸橋会長、内海委員、糸井委員、今喜寿委員、杉本委員、徳原委員、内藤委員、松本委員、向井委員、谷田部委員
（事務局）
三浦地域コミュニティ課長補佐、肥後男女共同参画推進係長、高畑主任
（文化科学研究所）
瀬戸、小谷
- 欠席者 堀井委員、長屋委員
- 傍聴者 なし
- 議 事 審議事項
- 1 府中市男女共同参画計画推進状況評価報告・第三者評価について
 - 2 第6次府中市男女共同参画計画について
 - その他
- 資 料
- 1 府中市男女共同参画計画推進状況評価重点項目各委員評価
 - 2 府中市男女共同参画に関する意識調査報告書（案）
 - 3 第6次府中市男女共同参画計画新旧体系図（案）

開会

【会長】

定刻になりましたので、第6回府中市男女共同参画推進協議会を開会いたします。まず、事務局から本日の委員の出席状況等について、報告をお願いします。

【事務局】

本日の出席状況でございますが、堀井委員、長屋委員が欠席です。定数12名中10名の委員にご出席をいただいておりますので、本協議会は有効に成立していることをご報告いたします。なお、本日の傍聴希望者はございません。

次に資料の確認をさせていただきます。

（配布資料1から3の確認）

以上でございます。会長、よろしくお願いいたします。

【会長】

前回10月26日に実施した第5回の議事録につきまして、事前にご確認いただいておりますが、改めて修正等でお気づきになることはございますか。

それでは、議事録は了承とし、事務局は公開の手続きをお願いいたします。

次に、次第1の報告事項(1)府中市男女共同参画計画推進状況評価報告・第三者評価について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

資料1の前半部分の5項目について、委員の皆様からご意見はいただきませんでしたので、確定とさせていただきます。また、後半の5項目につきましては、前回の協議会で、協議していただきましたものを、諸橋会長、内海副会長と確認し、先日委員の皆様を送付させていただきましたものです。

(資料1の事業番号64、74②、81、89③、96の修正部分の説明)

何かご意見がございましたら、お願いいたします。

なお、今年度の重点項目の10項目の評価につきまして、B評価が5項目、C評価が5項目となっております。以上でございます。

【会長】

何かご意見、ご質問ありますか。

【委員】

8ページの81健康診査事業の充実の「受診率をもう少し上げてください」の部分ですが、口語的なので表現を変えたらどうでしょうか。

【会長】

「今以上に」や「更に上げてください」等に修正していただきましょう。他はどうでしょうか。

特になければ、これで決定いたします。何か気づいたことがあれば、また後で付け加えていただいて結構ですので、第三者評価については、終了いたします。

では、審議事項(2)第6次府中市男女共同参画計画について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

詳細につきましては、第6次府中市男女共同参画計画策定準備支援業務委託業者の株式会社文化科学研究所より、説明をいたします。

【文化科学研究所】

(資料2について説明)

【会長】

ありがとうございました。男女別と年齢別に細かく説明いただきました。いろいろご意見いただければと思います。

【委員】

世論調査との比較があるものとなないものがありますが、ないものについても比較をしていただきたいです。

【事務局】

比較できるものは載せてあります。例えば問1の男女共同参画等の用語の認識については、今回初めて調査したので比較できません。

【委員】

比較できるものはすべて載っているということですね。ありがとうございました。

【委員】

こういう意識調査で回収率が38.6%というのは、一般的にこのくらいなのですか。

【文化科学研究所】

近隣自治体の同様の調査と比較いたしまして、だいたい平均か若干高いです。

子育ての調査等ですと、お子さんのいらっしゃる方だけにお送りしますので、当事者意識があり、回収率が上がるのですが、今回のように全員にお送りするようなものについては、関心のある方、無い方で差があるので、このくらいの数値になってしまいます。

【会長】

35%くらいの予想でしたので、少し良いと思います。提出してくれる人は関心の高い人ですから、府中市全体の意識が反映しているとは言えないかもしれません。

【文化科学研究所】

他の自治体では、働き盛りの30代、40代の方は回答率が低い傾向にあるのですが、今回は比較的多かったと思います。

【委員】

問16-3ですが、一番多いのが「相談しても無駄だと思った」で、相談しても無駄だと思うから、問16-2で相談相手は「友人・知人」になり、相談窓口には来てくれないのかなと思いました。窓口で相談して解決につながっているのか、解決できないから無駄だと思われていて相談しないとなるのかなと思いました。

【会長】

どちらなのでしょう。女性センターに相談しても無駄だと思われているのか。それとも、知らないということもあると思うのですが。その辺りについてご意見ありますか。

【委員】

私も気になっていて、少し違う観点ですが、「相談しても無駄だと思った」が世論調査

よりかなり増えています。これは相談したことがない人の意見です。問17は全員が答えていると思うのですが、一般論として「窓口を増やす等相談しやすい条件整備をしたら良いのではないか」と思われている。しかし、実際切羽詰まっている人は「相談しても無駄だ」と思っている。ここにすごくギャップがあり、行政が相談窓口だけ増やしても効果はないと思われるので、ここは深堀しないといけないと思いました。難しいとは思いますが、「今の窓口で相談しても解決につながらなかったのか」というような点を深堀できるならしないと、ただ窓口を増やしても無駄なのではないかと思いました。

【会長】

「解決しています」ということを積極的にPRしていくことも大切だと思います。

【委員】

問15のところでも「警察や相談機関等にかかわってもらべきだ」という意見が多いので、一般的にはそう思っている、問16-2で実際にどういうところに相談したのかというと「警察」でも2割もいかない。「相談機関にかかわってもらべきだ」と言いながら、実際に窓口に行く人は少ない。理想と現実のギャップが大きいですね。

【会長】

実際と一般論や施策意向とずれがあるということですね。当事者でない人たちが一般的に「警察や相談機関がかかわるべきだ」と言っており、実際の当事者は警察にも女性センターにも行っていません。当事者と一般の人との違いがあり、これは課題です。PRや「解決していますよ」との宣伝も必要ですが、「友人・知人」「家族・親戚」に啓発する等が一つの施策になるかもしれません。パンフレット等で「知人や家族にそういう人がいれば『あなたは悪くない』と言ってあげなさい」等伝える方法もあるので、「友人・知人」「家族・親戚」に相談している人が多いという実態があるとすれば、そういう人々を啓発するのも解決につながるのかもしれません。警察や相談機関には行きづらいというのがありますよね。次の施策に活かせば良いと思います。

【委員】

問2、問3で「仕事、家事の分担は、話し合いや、できる方がする等、柔軟に対応」というのは良い選択肢であるとは思いますが、実態としてどうなのでしょう。実態では「男性は仕事、女性は家事をしている」や「男性は仕事、女性は主に家事をし、仕事もしている」が少し上がるという結果を見ると、解釈をしっかりと考えないといけません。

【委員】

「できる方」が女性なのかもしれません。

【会長】

柔軟に女性ばかりやっているのかもしれないし、柔軟に男性はやらないのかもしれない

ん。

【委員】

近場で、若い職員等の話を聞いていると、こういう部局にいたり、セミナー等で話をよく聞いている方でも、まだまだ男性自身「実際は共働きをしていますが、できるのであれば男性は仕事で、女性は家庭という役割分担があった方が良く」という人が結構多かったり、若い女性自身も「無意識にそういう風に思っている」と本人が話していたりします。昔に比べて意識は傾いてきているとは思いますが、まだまだというところを踏まえた上で、アンケート調査の結果を見ないといけないのかなと思います。

【会長】

この選択肢を入れたために、だいぶこちらに流れたという気がします。「できる方がする」の定義は何なのか。

【委員】

私の職場でも共働きの方はたくさんいますが、子どもが熱を出せば、休むのは女性、短時間勤務をするのも女性です。男性の短時間勤務はいないです。

【委員】

この選択肢があれば、他には丸はしないですね。7：3で家事は女性という感じがですが、男性が全くしない、ゼロということはないと思います。

【会長】

他にご意見はありますか。

【委員】

回答率がやはり気になります。女性センター、男女共同参画というと「何かかたくて、違う」と思われてしまう。

【会長】

女性センターとか男女共同参画というお役所的言葉がなじまないというのはあるかもしれませんね。

【委員】

20代、30代の男性が「女性が結婚しても職業を持ち続ける」ということに前向きとか協力的ということが、今後に期待できると思いました。

【会長】

明かりが見えるというか、性別・年齢別をやっていただいて、そういうところを見ることができますね。20代、30代の男性が少し変わってきているかなというのが良い兆しです。

【委員】

「職業を持ち続けるのが良い」という先程の役割分担との関係について、「職業を持ち続けるのが良い」という人がものすごく増えていますが、仕事・家事・子育て等、家事全部を女性がやるというのであれば、「家事を全部女性がやるのであれば、どうぞ職業を持ち続けて」ということになるのでしょうか。「職業を持ち続けるのが良い」が一般的な考えになってくるのは良いですが、女性もキャリアを積んでいくには、性別役割分担も変わっていかねばなりません。だいぶ良くなっているとは思いますが、ただ、国と東京都と比べるとちょっと低いと思います。

【委員】

確かに以前の調査と比べると「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職に就くのが良い」と「結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのが良い」が逆転しています。背景としては育児休暇や法律の整備等があるのですが、だからと言って、家庭生活上で家事と仕事が両立できるかという点、問10の結果からいっても「家事・育児との両立が難しい」が一番多く、両立が一番難しいということが分かります。理想は「女性も働き続ける」、だけれど実態としては「家庭」ということになります。

【会長】

建前というか、意識は変わってきたのは良いとして、今後は意識に実態がついていくような施策を行っていくということですね。考え方はだいぶ変わった、その理想が実現できる施策を実行していく方にシフトしていくということですね。

貴重なデータです。ホームページ等で公開されると思いますので、ご覧ください。

【委員】

線が消えてしまっているのは、印刷でうまく出なかったのですか。

【事務局】

プリンターの機能上の問題もあります。貴重な基礎資料ですので、見やすく印刷したものをまた配布いたします。

【委員】

性別・年齢別のコメントを入れていただいているのですが、できればビジュアルで見られるものを、表か図で入れていただきたい。

【文化科学研究所】

性別と年齢別のそれぞれのグラフをつけることはあるのですが、男性の年齢別、女性の年齢別のグラフは棒が何十本にもなってしまい見にくくなります。また、全ての質問につけるとかなりページ数になってしまいます。

【委員】

全ての質問ではなく、ここを知りたいと思うところ、若い人達の意識が変わってきていることが見えるような質問にはグラフをつけたら良いのではないのでしょうか。

【文化科学研究所】

どこにつけるかをご相談させていただきたいと思います。

【会長】

性別・年齢別をグラフにするなら帯グラフが良いですね。棒グラフだとどれがどれだか分からなくなりそうです。一覧表でも良いのではないのでしょうか。では、年齢別のデータを何かしら入れていただくということをお願いします。

それでは、府中市男女共同参画に関する市民意識調査報告書案については、終了とさせていただきます。

次の第6次府中市男女共同参画計画新旧体系図案につきまして、事務局からお願いいたします。

【事務局】

(資料3について説明)

【会長】

説明ありがとうございました。紐づく目標や課題が変わり、あちこちに行ったものがあり、新設がいくつかあります。先ほどご説明がありましたように「女性活躍推進法」「DV防止法」に対応するものが見えるようなかたちにしています。この下に事業がぶら下がっていきます。我々はこの図を確定して、市長に答申するということになると思います。この図についてご意見いかがでしょうか。

【委員】

「ワーク・ライフ・バランスの推進」の中で「(1)誰もが働きやすい職場環境づくりの推進」の「誰もが」がついているのとついていないのでは意味合いが違ってくると思いますが、この「誰もが」をつける意味をどう考えているのですか。

【会長】

これは「男女ともに」といったあたりを入れようとしたニュアンスで、無いとただ「働きやすい」になってしまいますので、「誰もが」を入れたところに積極性が見えると思います。

【委員】

言葉としてはきれいなのですが、何をもって「誰もが」とつけているのですか。

【会長】

男女、あるいは障がいの有無、年齢にも関わらずということになると思います。そのあたり、事務局どうでしょう。「誰もが」をつけた意味ですが。何を想定しているのか。

【事務局】

ご指摘の通り、誰もがという幅広くなりすぎてしまうかもしれませんが、基本的には男女ということで、男女差があるような分野に積極的に働きかけるような事業がこの下にぶら下がってきます。そのことによって男女平等の環境になってくるということです。単に働きやすいというと、ハード面等いろいろあると思うのですが、これは人に着目して設定するという意味もあると思います。事務局でも明確に整理できていませんが、「誰もが」と入れることでそういう視点も入れることができると思っています。これで決まりということではありませんので、ご意見いただきましたので協議して調整したいと思います。

【会長】

委員の方で何かご意見ありますか。

【委員】

あえて「誰もが」と入れる必要があるのか、誤解がなければと思います。施策の体系の中に落とし込めるのか。例えば、障がい者等は別枠でやっていますよね。そういう別枠的なものが入ってきてしまうのではないのでしょうか。「男女が」としたらどうでしょう。

【会長】

「誰もが」ということでLGBT等多様性も想定してということなら、それもありと思います。吟味していただくことにいたしましょう。

他にいかがでしょうか。

【委員】

「人権が尊重される社会の形成」の中で、「生涯を通じた健康保持・増進推進」とありますが「増進推進」という言葉はどうでしょうか。旧体系図のように「増進支援」で良いのではないのでしょうか。

【会長】

「増進の推進」と「の」が入れば良いと思います。「健康保持」と「健康増進」の「増進」ということだと思のですが。「増進の推進」でいかがでしょうか。課題と施策が入れ替わりましたね。まだ決定ではありませんので、用語については少し検討させていただくことにいたしましょう。他に何かありますか。

【委員】

「ワーク・ライフ・バランスの推進」の「仕事と生活の両立支援推進」の中の「（２）仕事と家事・育児等が両立できる生活環境づくりの推進」が具体的にどういうことかと考えた時、例えば「保育園」とすると、その下に「子育て支援・介護支援」があります。この「（２）仕事と家事・育児等が両立できる生活環境づくりの推進」が具体的にどういう

ことなのかがイメージできないです。新しく追加しているので、何かやりたいことがあつてのことだと思うのですが、それが知りたいです。

【事務局】

ここで生活環境づくりと入れさせていただいたのは、今後、男性の働き方改革を含め、男性の家事、育児参加というところを考えております。現行で子育ての参画という施策はあるのですが、その辺をもう少し強調していこうと思っております。職場でのことと家庭でのことを分けて考えていこうと思っておりましたが、名称を含めもう少し検討していこうと思います。

【委員】

やりたいことは分かりました。ありがとうございます。

【会長】

確かに、男性の家事・育児参加は他のところに入らないとなると、ここが良いということですね。子育てや介護支援とも少し違うので、これで良いでしょう。ありがとうございます。

【委員】

さっきの「誰もが」ですが、確かに誤解を生むかもしれませんが、「男女」というより、女性でも男性でも、何か事情を抱えた人でも、いろいろな人がいるわけですが、その誰もが働きやすい環境ということで、私はすんなり入ってきました。あんまりここで「男女」とか「多様な」とか規定してしまわず、ちょっと漠然としていた方が良いのかなと思います。自分のプライベートなところで何か抱えている人、癌でも働いている人、いろいろな人がそれなりに働いていける環境づくりと理解しています。引き続き吟味していただきたいです。

【会長】

少し手直ししていただいて、次回も議論したいと思います。

では、事務局から、その他についてお願いいたします。

【事務局】

募集しておりました男女参画センターの愛称ですが、市内外から全部で64件ほど応募いただいております。この中から今後部内で検討させていただき、決定する予定となっております。後日協議会に報告させていただきます。

先日は、男女共同参画推進フォーラムにご参加いただきありがとうございました。人数は確定しておりませんが、昨年度を上回った人数になる予定です。基調講演も安藤哲也さんにお話をいただきました。年齢が高い方が多かったので、安藤さんも「僕の話はアウェイかもしれない」とおしゃっていましたが、その後、参加した方とお話したところ「今の自

分の息子が家庭生活している中で、なんで息子があんな手伝わなくてはいけないのだろう
と思っていたけれど、そうじゃないのだと分かった」と言っていました。

本日ご協議いただいた第三者評価の報告書につきましては、最終回の1月28日開催の
第7回協議会に答申、報告書確認の際に、次回ご協議いただく女性センターの運営につい
てとともに、ご確認いただく予定です。

なお、ご協議いただきました「体系図」につきまして何かご意見ございましたら、12
月3日（月）までにいただければ、専門部会で協議いたしますのに参考にさせていただきます。

次回の協議会の開催は、12月21日（金）、午前10時から、会場は市役所3階第1
会議室でございます。

【会長】

それでは、第6回男女共同参画推進協議会を閉会とします。

本日はご出席ありがとうございました。